

こんにちは日本共産党市会議員の 吉崎 ひさし です

第76号 2018年11月発行
9月議会の報告をさせていただきます
どんなご相談でもお気軽に声をおかけ下さい
電話42-7574または携帯090-8752-5463へ



晩秋の候となり、極端に暑かった夏の市議選から早2ヶ月が経過しました。私も市会議員5期目となり、議員の中で「最長老」となりました。

9月議会は、議会の役員選挙が行われ（ポストは議長・副議長・監査委員13）、党議員団は第3会派であり議席の数に応じた役職を求めましたが、完全に排除される結果となりました。従来同様「防災対策特別委員会委員長」（搦頭）・「予算決算委員会副委員長」（吉崎）のみとされました。加えてこれまで自民系でなかった議員がそこから離れて自民系に入る事態も生まれ、一層「オール与党」体制が強まることになりました。

このような中で、今後4年間「市政のチエック役」と「願い実現のお手伝い」の二つの議員の役割を一層自覚し、全力あげてがんばる決意です。引き続きご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

綾部市議会議員

吉崎 ひさし

わたしの一般質問から （要旨）

7月の西日本集中豪雨では市内各地で災害が多発し、上杉町では尊い人命が奪われる事態となりました。また市内の被災総額も昭和28年に次ぐ災害となり深刻な事態を招いています。一時は府道・市道が災害発生によって寸断され市全体が孤立する状況も生まれました。

―7月集中豪雨で発生した土砂災害は同一箇所でも2度目の災害となる。なぜこのような事態を招いたのか。今後の対応は。

質問【市道高津旭線（広域農道）旭町での土砂崩落は同一箇所でも平成25年に続いて2度目の被災。この結果をどのように見ているのか。また前回の復旧工事に問題はなかったのか。

答弁【25年の災害は崩落量は8千立米で今回は量は半分。しかし今回は流出した土砂が民家を突き破った。想定外の被害状況だ。復旧工事に問題はなかったと判断している。



旭町での土砂崩落現場（7月7日午前2時半発災、写真は7日午後2時）

質問【25年災害時に地盤伸縮計を設置し、半年間経過観察をしたが地盤は安定していると判断、しかし土地の形状や土質から見て、再発の想定はできたのではないのか。

答弁【地盤伸縮計の値に大きな変化はないし、地滑りではないと判断。27年には排水路整備や土砂だまりも行った結果、大丈夫と判断していた。

質問【想定外はあつてはならない。今回の復旧工事は、法面の崩落があつても市道まで流出しない設計が必要ではないか。

答弁【現在府と協議しており、道路まで土砂が出ない工法を検討し、大規模な復旧工事にしていきたい。

質問【左図は私市町地内にある市管理河川 森本川「最上流部。円山古墳の土砂崩落と高速道の排水が一緒になり流量オーバーで川の状態が消失し、下流部の民家に浸水被害を起こした。円山古墳も26年災害で場所は違うが2度目の土砂崩落。その原因は。

答弁【26年は古墳北側法面2箇所が崩落。



崩れた森本川上流部の現状

今回は南側。排水管を設置したが、想定外の降水量で崩落した。

質問【これも想定外というがそれではダメだ。今回の復旧工事はどうするのか。

答弁【災害復旧は原則現状回復だが、従来の工法に加えて盛り土に面状排水利・滑り止め防水シートなどを設置したいと考えている。

質問【さらに高速道の排水処理が現状で適切なのか。加えて現在車線拡幅工事を行っているが、その影響もあるのでは。地元自治会からネクスコに対して対策を求めているが、市としてどう対応するのか。

答弁【26年災害は私市町では今回より被害が大きかった。その原因に高速道排水も指摘されていた。以前から4車線化は計画されていたが、近年の想定外の集中豪雨までは計画されていなかった。今後市と地元、ネクスコも含め調整を行い、対応可能な被害の軽減策について協議する方向だ。

私は綾部市が、ネクスコに対して言うべきことをきちんといい、地元と一緒に必要を申し入れを行うことを強く求めました。

―裏面に続きます―
ぜひ裏面もご覧下さい。

――表面から続きます――

二、近年の降雨量との関係で都市下水路の整備拡充を行うべきではないか。

【質問】現状の都市下水路で近年の雨量に対応できるのか。

【答弁】現状で市街地の雨水の排水処理は可能と見ている。

【質問】しかし想像を超える降水量のもとで果たして現状で浸水は防ぐことができるのか。

【答弁】連続する降雨で市内の道路側溝が溢れる状況もあり、平成27年に雨水対策基本計画をつくり、短期・中期・長期計画をつくった。長期的には下水路の再整備も検討している。

【質問】特に中筋地域では住宅開発が進み遊水地が減少している。それが水害を招く要因になるのではないか。

【答弁】そのことも含めて計画はつくった。整備は下流から行うのが原則であり、そのために古川樋門付近に排水ポンプ場をつくることを計画している。



延町古川樋門前に配置された排水ポンプ車（7月7日撮影）

三、中筋小体育館の雨漏り改修を早期に行うことを求める。

【質問】7月集中豪雨災害をはじめ、過去5年間連続する災害発生でその復旧工事などに多額の出費があるとして、今年度当初予算で計上されていた中筋小体育館の雨漏り改修が延期されることになった。29年末の財政調整基金残額（貯金）と現状の基金残高はどうなっているのか。

【答弁】9年末は1億3千万円、今年度9月補正時で億7千万円となっており厳しい財政状況となっている。

【質問】厳しい状況の下で、もし複合的災害などが発生すれば、学校は当然避難所となる。しかし雨漏りする体育館では避難は不可能ではないか。どうするのか。

【答弁】よくわかっているが、予算全体を見直す中で、応急的措置もできないので先送りせざるを得ない。

四、生活保護基準の引き下げは中止すべき

○生活保護基準の引き下げが10月1日から実施されることになった。今回の改定は食費や光熱水費など生活扶助の基準引き下げで3年かけて5、4%を連続的にこなうもの。

【質問】現状の生活保護の実態は。

【答弁】8月末で182世帯、255人。年齢構成は0才～18才20人、19才～64才92人、65才以上133人。高齢者世帯が96世帯、101人。

【質問】今回の改定で受給世帯の受給額はどうなるのか。また来年度の就学援助への影響はどうか。

【答弁】9月分と比較して減少する世帯が52.5%、増加する世帯が31%、変化なしが16.5%。来年度の就学援助も現状の生保の1.5倍でいきたい。

【質問】今回、母子加算も3年間かけて20%削減を計画しているがどうか。

【答弁】一人目の子どもの単価は段階的に下がっていく。子どもが2人以下の世帯は現在の金額より下がる。3人以上の世帯は上がる設定とされている。

五、放課後学級（学童保育）未実施校での早期開所を求める。

○現在市内で放課後学級未実施校は志賀小・西八田小・上林小の3校ある。行政の公平性の点から、周辺部でのイターン者受け入れ整備からも早期実施が必要ではないか。



中筋放課後学級「なかよし」

【質問】今年5月現在で入所者数は380人となっているが、未実施校でのニーズ調査は実施されているのか。

【答弁】地元のPTAやニーズ調査（アンケート調査）をされた。その結果は通年希望が志賀で9人、上林で6人ある。その結果を受けてPTA、自治会連合会から開設要望が上がっている。

【質問】行政の公平性から見ても、定住促進の面からも子育て支援としての学童保育所開設を早期に行うべきではないか。

【答弁】従来は補助金も人数要件があったが、現在は不要となっており、財政状況をみながら検討していく。

これらの質問以外に、障がい者の「水夢」利用料の減免制度の創設を求めました。以上が一般質問の概要です。みなさんのご意見をお聞かせ下さい。

毎年9月議会は、前年度の「決算審査」を行います。従って9月11日から10月26日までの長丁場の議会となりました。29年度決算については、共産党議員団として「一般会計決算」については反対し、他の全ての決算には賛成しました。

なお反対討論は井田議員が議員団を代表して行いました。その主旨は、市民の暮らしが大変な時だからこそ、しっかりと暮らしを応援する事業を展開するべき。また国の悪政をそのまま持ち込むことは認められないこと。すでに終了した同和対策はキツパリと廃止するべき。7月豪雨では府道・市道で災害が発生し、一時的に市全域が孤立する状況も生まれ、複合的災害でも起きれば極めて深刻な状況になる危険

性がありその対策は急務であること。さらに市立病院での未収金請求ミスが起きたことにも見られるように、内部のチェック機能の強化が重要などの指摘をして反対しました。

十二月議会の予定

12月3日（月）本会議（開会）
11日（13日まで）一般質問
14日総務教育建設委員会
17日業厚生環境委員会
18日 予算委員会
19日 予算委員会（総括）
21日 本会議（採決）

みなさん、お時間が許せばぜひ傍聴にお越し下さい。開会は今週9時30分からです。



7月豪雨の土砂崩落で3人の方が命を奪われた現場の救出作業中の自衛隊員の方々（7月7日正午前撮影）